

ユコス子会社売却を契機に進むロシア石油産業のさらなる再編成

総合エネルギー動向分析室 主任研究員 小森 吾一

はじめに.

2004 年 12 月中旬、ロシア連邦政府は税滞納分の担保として差し押さえていたユコスの主力生産子会社ユガンスクネフチェガスの全株式の 76.8%を競売により売却した。落札したのは無名のバイカル・ファイナンス・グループという会社であったが、その後、国営石油企業ロスネフチが同グループの全株式を取得して、ユガンスクネフチェガスを事実上、自社の傘下に収めた。なお、ロスネフチはガスプロムに吸収合併される予定であり、この吸収合併が実現すれば、ロシアのガス独占企業体であるガスプロムがロシア第 1 位の産油量を持つことになる。一方、主力生産子会社ユガンスクネフチェガスを失ったユコスは「最も重要な経営基盤の一つ」を失った。

本稿では、2004 年のロシアの石油産業の実績、ユコスの税滞納・子会社売却に関する動向をまとめた上で、今後のロシア石油産業のさらなる再編成の展望・意義について述べることとする。

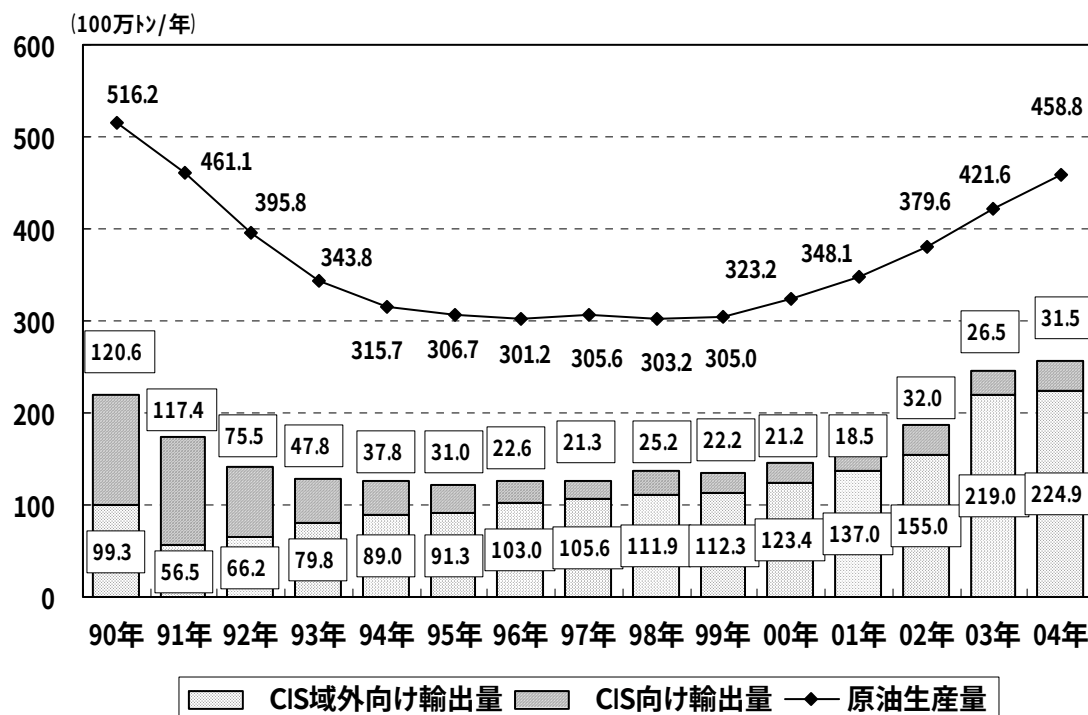
1. 2004 年のロシア石油産業の実績

ロシアの石油産業は現在好調である。原油生産量をみると 1999 年から 2004 年まで 6 年連続して増加して、2004 年には 4 億 5,588 万トン（前年比 8.88%増）となった（図 1）。これで旧ソ連が解体した 1991 年当時の 4 億 6,110 万トンとほぼ同水準の原油生産量を回復したことになる。ロシア産ウラル原油価格（ロシアが欧州向けに原油を輸出する際の価格）は 1998 年以降上昇傾向にあり、2004 年の同年平均価格は 34.43 ドル/バレルと 1990 年以降で最高値を記録した（図 2）。このような高水準の原油価格がロシア石油企業の上流（探鉱・開発・生産）部門への継続的な投資を可能にして、原油増産を可能にしたと考えられる。

2004 年末でロシアの石油産業には「探鉱・開発・生産」、「精製」、「販売」の各子会社を統括する機能を有する垂直統合石油企業が 9 社活動している（表 1）。2004 年の原油生産量の実績をみると、これらの垂直統合石油企業 9 社合計で 4 億 1,439 万トンとロシア全体の 90.3%のシェアを占めている。そして、このシェアは 1995 年以降 2004 年まで約 9 割という水準で推移している。

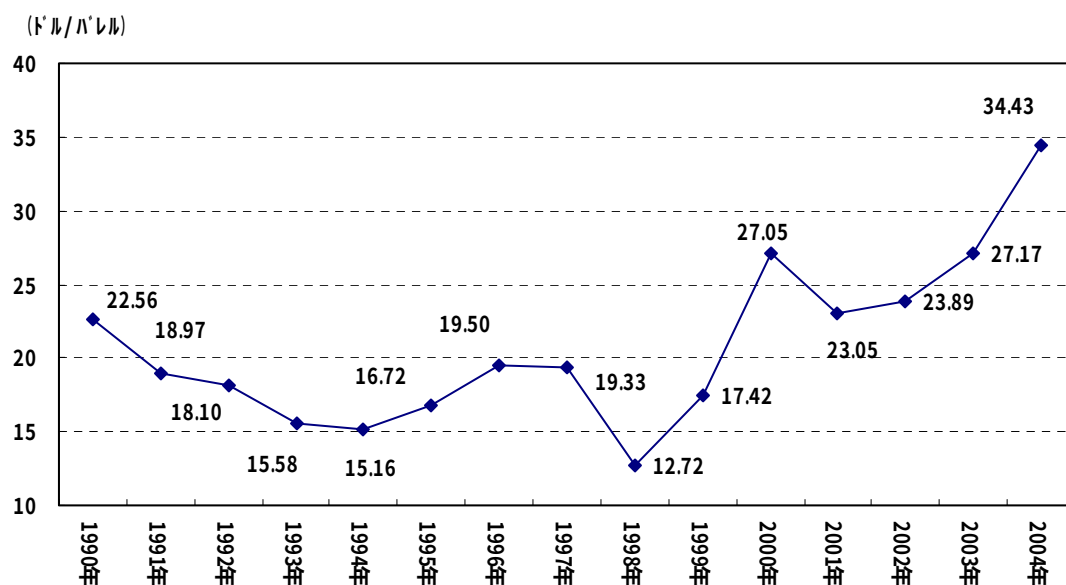
ユコスは 2003 年に原油生産量でルクオイルを抜いてロシア第 1 位となった（表 1）。2004 年の原油生産量実績もユコスは 8,568 万トンでロシア第 1 位である。そして、第 2 位のルクオイル（原油生産量 8,410 万トン）、第 3 位の TNK-BP（同 7,027 万トン）の上位 3 社を合わせたシェアはロシア全体の 52.3%を占めている。

図 1．ロシアの原油生産量・輸出量の推移



(出所) PlanEcon Energy Report, Vol.11, April 2001, p.9. (1990 年～2000 年)、Eastern Bloc Energy, 各版. (2001 年～2003 年)、Interfax Oil & Gas Weekly, December 31, 2004-January 19, 2005, p.36. (2004 年：原油生産量)、Eastern Bloc Energy, January 2005, p.3. (2004 年 1～11 月：原油輸出量)。

図 2．ロシア産ウラル原油価格の推移



(出所) Russian Energy Monthly, January 2005, p.30 より作成。

表 1．ロシアの垂直統合石油企業別の原油生産量の推移（1995 年～2004 年）

	95年	96年	97年	98年	99年	00年
ハシムネフチ	17.74	16.34	15.36	12.96	12.26	11.94
コムテック	4.53	4.18	3.59	3.46	—	—
ルクオイル	55.58	53.79	53.40	53.29	61.32	62.18
オナコ	7.66	7.89	7.93	7.85	7.48	7.51
ロズネフチ	12.80	13.00	13.47	12.99	12.67	13.47
シブネフチ	20.40	18.61	18.17	17.45	16.32	17.20
シダソコ	22.86	20.83	20.26	20.09	6.74	6.65
スラブネフチ	13.23	12.88	12.32	11.80	11.93	12.27
スルグトネフチェガス	33.33	33.26	33.91	34.94	37.58	40.62
ウトネフチ	25.02	24.78	24.55	24.57	24.08	24.34
TNK-BP	22.72	21.48	21.11	19.82	28.92	30.84
イースト・オイル	11.24	11.24	11.18	10.73	—	—
イースト・シベリア・オイル	0.11	0.01	0.03	—	—	—
ユコス	36.09	35.24	35.60	34.07	44.48	49.55
垂直統合石油企業合計	283.31	273.53	270.88	264.02	263.78	276.57
同・対前年比 (%)	-3.70	-3.45	-0.97	-2.53	-0.09	4.85
ロシア連邦合計	306.70	301.20	305.60	303.20	305.00	323.22
同・対前年比 (%)	-2.85	-1.79	1.46	-0.79	0.59	5.97
垂直統合石油企業の生産比率 (%)	92.4	90.8	88.6	87.1	86.5	85.6

	01年	02年	03年	04年	シェア (%)
ハシムネフチ	11.86	12.14	12.05	12.03	2.6
コムテック	—	—	—	—	—
ルクオイル	62.80	75.69	78.91	84.10	18.3
オナコ	—	—	—	—	—
ロズネフチ	14.94	16.10	19.57	21.60	4.7
シブネフチ	18.66	26.34	31.39	33.98	7.4
シダソコ	9.13	16.14	18.61	—	—
スラブネフチ	14.95	16.10	18.10	22.01	4.8
スルグトネフチェガス	44.03	49.20	54.03	59.62	13.0
ウトネフチ	24.61	24.56	24.67	25.10	5.5
TNK-BP	36.69	37.50	42.96	70.27	15.3
イースト・オイル	—	—	—	—	—
イースト・シベリア・オイル	—	—	—	—	—
ユコス	58.11	69.88	80.75	85.68	18.7
垂直統合石油企業合計	295.78	343.65	381.02	414.39	90.3
同・対前年比 (%)	6.95	16.18	10.87	8.76	—
ロシア連邦合計	348.10	379.63	421.38	458.81	—
同・対前年比 (%)	7.70	9.06	11.30	8.88	—
垂直統合石油企業の生産比率 (%)	85.0	90.5	90.4	90.3	90.3

（出所）Russian Petroleum Investor, 各版.（1995 年～1997 年）、Eastern Bloc Energy, 各版.（1998 年～2002 年）、Interfax Petroleum Report, January 16-22, 2004, pp.31-32.（2003 年）、Interfax Oil & Gas Report, December 31, 2004-January 19, 2005, pp.34.36.（2004 年）

2. ユコス子会社売却を巡る動き

2-1. 「ユコス問題」の発端からホドルコフスキー社長辞任まで

いわゆる「ユコス問題」は2003年5月にユコスの当時の社長であったホドルコフスキー氏がロシア下院議員選挙（2003年12月実施済み）、ロシア連邦大統領選挙（2004年3月実施済み）に当たり、共産党を含む野党への資金面での支援を発表したことが発端となっている。ロシアのプーチン大統領は就任直後にロシアの事業家達に対して、「政治がビジネスに介入しない代わりに、実業家は政治に口出ししない」ことを求めたとされている。つまり、ホドルコフスキー氏の野党への資金面での支援表明が、この「紳士協定に違反する」とプーチン政権側に受け止められた。

ロシアの検察当局は2003年7月にユコスの筆頭株主であるメナッテプ銀行のレベデフ社長を約10年前の民営化取引に関する国有財産の横領容疑で逮捕するとともに、1990年代後半に発生した計7人のロシア人実業家の殺人・殺人未遂容疑でユコス社幹部の取り調べを開始した。そして、2003年10月には再三再四の検察当局からの出頭要請に応じなかったホドルコフスキー社長が国有財産の横領および脱税の容疑で逮捕された。同氏はユコス社の社長職を辞任し、また、2005年2月中旬時点でも拘置中である。

ホドルコフスキー氏の逮捕、そして社長辞任という「非常事態」を受けて、2003年4月に合意に達していたユコスとシブネフチ（原油生産量はロシア第5位）との合併計画は2003年12月に白紙撤回された。

2-2. ロシア連邦政府のユコスに対する税滞納分の追徴請求

2003年12月、ロシア税務当局はユコスに対して2000年度における税滞納分および罰金として34億ドルの追徴を請求した。当然、ユコス側はこれに即座に応じるわけがなく、モスクワ仲裁裁判所に不服を申し立てて提訴した。しかし、2004年7月に同裁判所はユコスの申し立てを却下して、ロシア税務当局の主張を認めた。そのため、ユコス側も2000年度の税滞納分および罰金34億ドルを支払うことに同意した。

そして、この「同意」表明を契機にロシア連邦政府からのユコスに対する「攻勢」はさらに激化し、ユコスはそれに耐え切れなくなり、事実上、経営基盤を失う結果となる。それらの主なものをまとめると以下の通りとなる。

①ユコスの口座を凍結。

②ユコスが保有するユガンスクネフチェガスを含む生産子会社5社の株式を差し押さえ。

③2001年度、2002年度、2003年度についても税務調査の結果、ユコスに対して税滞納分に加えて罰金の追徴を請求。これで、ロシア連邦政府当局のユコスに対する追徴額の合計

は 275 億ドルとなった¹。

ユコス は 2001 年度から 2003 年度までの分についてロシア連邦政府から新たな税滞納分・罰金の追徴請求がくるとロシア国内の裁判所に「無効」を訴えて提訴を行ったが、それらはことごとく却下されて、ロシア連邦政府の主張が認められる形となった。

2004 年 11 月、ロシア連邦政府は総額 275 億ドルに達したユコスの税滞納分・罰金を回収する第一段階としてユコスの主力生産子会社ユガンスクネフチェガスの売却のための入札を 2004 年 12 月 19 日に実施することを発表した。

2-3. 主力生産子会社ユガンスクネフチェガスの競売

ユガンスクネフチェガスは西シベリアで原油生産活動を行っているユコスの主力生産子会社である。2004 年の原油生産量実績は 5,175 万トンでユコス全体の原油生産量実績の 8,569 万トンの 60.5%に相当する規模となっている。

表 2. ユコスの各生産子会社の原油生産量の実績 (2004 年)

	原油生産量 (1,000トン)	比率 (%)
ユガンスクネフチェガス	51,794.8	60.5
サマーネフチェガス	12,399.5	14.5
ユコス	670.0	0.8
ヴォストシブネフチ	43.3	0.1
トムスクネフチ	17,539.2	20.5
トムスク・ペトロリアム & ガス	643.3	0.8
アークティクガス	189.7	0.2
ザパドノ・マロバリスクオエ	2,297.0	2.7
ウレンゴイル	101.7	0.1
＊ユコス合計	85,678.5	100.0

(出所) Interfax, “Oil & Gas Weekly”, December 31, 2004-January 19, 2005, p.35 より作成。

2004 年 7 月にユコスが税滞納分・罰金を支払う意向を表明して以来、ロシア連邦政府当局はユコス本社が保有する生産子会社 5 社の株式を差し押さえている。そして、次の段階としてロシア連邦政府は自らのユコスに対する債権（ユコスが支払うべき税滞納分・罰金）を現金化して回収するために、差し押さえたユガンスクネフチェガスの株式の売却に着手した。

¹ これらの追徴額の内訳は以下の通りである (Interfax, “Oil & Gas Weekly”, December 16-22, 2004, p.16)。単位は「10 億ドル」。

	合計	税滞納分	罰金
2000年	3.643	1.646	1.997
2001年	7.159	3.105	4.054
2002年	8.829	4.094	4.735
2003年	7.907	3.963	3.944
	27.538	12.808	14.73

既述の通り、ロシア連邦政府は総額 275 億ドルに達したユコスの税滞納分・罰金を回収する第一段階としてユコスの主力生産子会社ユガンスクネフチェガスの売却のための入札を 2004 年 12 月 19 日に実施することを発表した。12 月 15 日にユコスは米国ヒューストンの連邦裁判所に対して子会社ユガンスクネフチェガスの売却のための入札の差し止め請求を起こしたが、ロシア連邦政府は 12 月 19 日、入札を予定通り実施した。

落札したのは無名企業バイカル・ファイナンス・グループで、有力視されていたガスプロムやスルグトネフチェガスは応札を見送った。また、応札したのもバイカル・ファイナンス・グループだけで、同グループはユガンスクネフチェガスの全株式の 76.6%を 93.5 億ドル（2,607.5 億ルーブル）で取得した。その直後、ロシアで唯一の 100%国営石油企業であるロスネフチがこのバイカル・ファイナンス・グループの全株式を取得し、事実上、ユガンスクネフチェガスを自らの傘下に収めた。さらに、ロスネフチはガスプロムに 2005 年中に吸収合併される予定である（新会社名は「ガスプロムネフチ」となる予定）。

2004 年実績で算定すると、ユガンスクネフチェガスの株式所有権がユコスからロスネフチに移ったことにより、ユコスの原油生産量はロシア第 1 位の 8,568 万トンから第 5 位の 3,389 万トンまで低下することになる。一方のロスネフチの生産量は同 8 位の 2,160 万トン、ガスプロムは同 10 位の 1,201 万トンであったのが、両社が合併した新会社「ガスプロムネフチ」の原油生産量は一気に 8,540 万トンとルクオイルの実績（8,410 万トン）まで抜いてロシア第 1 位となる。そうなれば、世界第 1 位の天然ガス生産量を誇るガスプロムがロシア石油業界での最大手の企業として「君臨」する状況が生まれる。

ロスネフチはユガンスクネフチェガスの全株式の 76.6%を保有する筆頭株主となったが、ガスプロムとの合併を控えて、ユガンスクネフチェガスの保有形態を「直接保有」とするか「新設の 100%国営企業を通じた保有」とするか現在も検討中である。これは、米国ヒューストンで係争中の関連裁判の行方を見極めて、自社に有利な方法を選択するものと考えられる。

また、中国の CNPC やインドの ONGC がユガンスクネフチェガスの残りの約 20%分の株式を取得しようとする動きがある。

なお、ユコスの筆頭株主であるメナテップ・グループ（ロシアの新興財閥・金融資本の一員）は、ロシア連邦政府がユガンスクネフチェガスの売却入札を強行したことで株価が大暴落したことを受けて、総額 283 億ドルの損害賠償を求めてロシア連邦政府を提訴した。この提訴はエネルギー憲章条約に基づいて実施されて、国連の国際貿易法委員会の規定が適用される。審判はオランダ・ハーグの国際司法裁判所で実施される予定である。

3．今後のロシア石油産業のさらなる再編成の展望

表 3 に 1991 年から現在に至るまでのロシアの石油産業の再編成の流れを示した。垂直統合石油企業の数 は 1995 年には 14 社あったが、2005 年 2 月現在 9 社となっている。

このロシアの垂直統合石油企業数は今後も減少する方向にある。スラブネフチは TNK-BP とシブネフチが折半出資で 2002 年 12 月の民営化入札で落札し、現在、資産の分割のための協議が TNK-BP とシブネフチとの間で進められている。

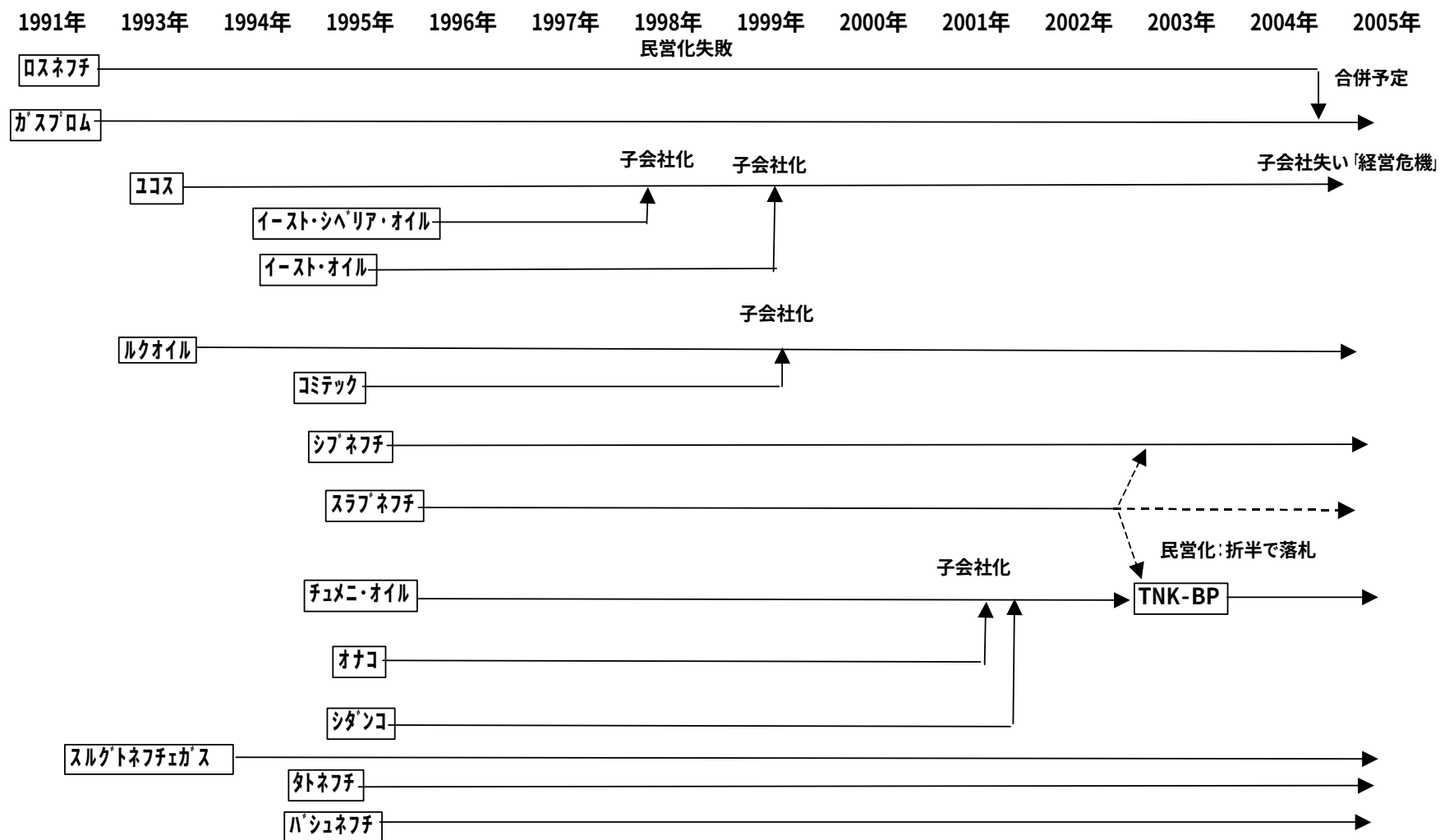
ユコス は同社の原油生産量の約 6 割を占める子会社ユガンスクネフチェガス を失った。さらにサマーラネフチェガスとトムスクネフチェガスという他の生産子会社もロシア連邦政府による入札により失う事態になれば、ユコスは垂直統合石油企業として機能しなくなる（他のロシア石油企業から原油を購入して精製し、石油製品を販売するだけとなる）。

ロスネフチはユガンスクネフチェガスを取得したことによりロシアで原油生産量第 1 位の地位を得た。そして、ガスプロムがロスネフチを吸収合併することで同第 1 位の地位を手に入れたことになる。つまり、ロシアの天然ガス産業を独占するガスプロムがロシア石油産業の再編成に深く関与することになった。

これまで、ルクオイル等のロシアの垂直統合石油企業は欧米メジャーと比較すると天然ガス事業をほとんど持たないという特徴が見られた。欧米メジャーと対抗するには天然ガス事業を展開することがロシアの垂直統合石油企業の課題となるが、今回、ガスプロムが石油事業に参入し、欧米メジャー並みに石油と天然ガスの両部門の事業を展開することになった。

今後、注目すべきはユコスの生産子会社サマーラネフチェガスとトムスクネフチェガスの行方である。ロシア連邦政府はユコスの税滞納分・罰金の回収のため両生産子会社の株式売却のための入札に踏み切るのか。また、仮にこの入札が実施された場合、落札するのはどの石油企業かで、今後のロシアの石油産業の「勢力図」がまた変わってくるであろう。

図3. ロシアの石油産業の再編成の流れ (1991年～2005年)



(出所) (財) 日本エネルギー経済研究所作成。

(資料：現在のユコスの経営・操業状況)

2004 年 7 月中旬から 2005 年 2 月中旬現在のユコスの状況を「当局によるユコス保有資産差し押さえ」、「ユコスの税滞納分・罰金・パイプライン使用料金の支払い状況」、「操業面への影響」、「財務実績への影響」、「裁判所への提訴・係争」、「ユコス関係者の動向」という観点から簡単にまとめておく。

***当局によるユコス保有資産の差し押さえ**

- ・ユコスの口座は 2005 年 2 月下旬時点でも凍結中。
- ・2004 年 9 月、ロシア連邦政府はユコスの保有資産の価値を約 150 億ドルと発表した。
- ・ロシア連邦政府はユコスの生産子会社 5 社の株式を差し押さえた。2004 年 12 月にロシア連邦政府は同生産子会社ユガンスクネフチェガスの全株式の 76.7%を入札にかけて、93.5 億ドルでバイカル・ファイナンス・グループに売却した。
- ・2005 年 1 月、ユコスの関係筋は同社がユガンスクネフチェガスの株式再取得を断念したわけではないと発言した。また、同関係筋は 2005 年春にロシア連邦政府が差し押さえ中のサマーラネフチェガスの株式売却を実施する可能性を指摘した。
- ・2005 年 2 月初めにユコスの関係筋はロスネフチがユガンスクネフチェガスの株式購入代金を国家に納めれば、ユコスの口座凍結が「解除」されるとの見通しを述べた。

***ユコスの税滞納分・罰金・パイプライン使用料金の支払い状況**

- ・2004 年 9 月、ユコスはトランスネフチと原油パイプライン輸送料金を「原油」で支払うことに合意した。
- ・2005 年 1 月末現在、ユコスは罰金分約 30 億ドルをロシア連邦政府に対して支払い済み。
- ・2005 年 1 月、ユコスは輸出関税の支払い不能に陥る。

***操業面への影響**

- ・ユコス、中国向けの鉄道による原油輸出を 2004 年 9 月末から一時停止した。また、リトアニアのマゼイキア製油所に対する原油供給も 2004 年 9 月末から 2004 年 12 月末まで一時停止した。
- ・2005 年 1 月初め、ユコスの欧州トレーディング子会社が原油供給不能となり「不可抗力」を宣言した。これを受けて、ユコスと原油供給契約を結んでいたハンガリーやルーマニアの製油所に原油の代替調達源を求める動きが出てくる。
- ・ユコスは 2005 年第 1 四半期について 753 万トンの輸出割当枠を獲得したものの、輸出関税の支払い不能で 2005 年 2 月契約分の原油輸出が全面的に停止した。
- ・ユコスは 2004 年 8 月に 2004 年の原油生産量目標を当初の 9,000 万トンから 8,600 万トンへ 4.4%下方修正した。2004 年のユコスの原油生産量実績は 2003 年の 8,075 万トンから 6.1%増の 8,569 万トンとこの下方修正された目標をほぼ達成した。なお、ユガンスク

ネフチェガスの原油生産量は 2003 年の 4,973 万トンから 4.1%増の 5,179 万トンとなった。ユガンスクネフチェガスは 2005 年について投資額を 2004 年比 3 倍増、原油生産量も同 4.3%増を目標としている。

***財務実績への影響**

- ・ユコスの株式資本価値（株価総額）は、ホドルコフスキー社長（当時）逮捕前の 2003 年 10 月の 323.24 億ドルから 2004 年 10 月には 77.32 億ドルまで約 4 分の 1 まで下落した。

***裁判所への提訴・係争**

- ・2004 年 10 月、中国 CNPC が中国向け原油輸出の一時停止でユコスを提訴。
- ・2004 年 12 月、ユコスはロシア連邦政府が計画していたユガンスクネフチェガスの株式売却のための入札の差し止めを求めて米国ヒューストンの連邦地裁に提訴した。（同地裁は入札差し止めの決定を下したが、ロシア連邦政府は入札を予定通り実施した。）
- ・2005 年 1 月、メナテップ・グループはロスネフチに融資を実施した際には中国 CNPC を提訴すると発表した。さらに、2005 年 2 月、同グループはユガンスクネフチェガスの株式売却入札強行で株価が下落し損失をこうむったとしてロシア連邦政府に 283 億ドルの損害賠償を求めて提訴した。
- ・2005 年 2 月、ユコスはユガンスクネフチェガスの株式売却入札を巡り、ガスプロム、バイカル・ファイナンス・グループ、ロスネフチに対して 200 億ドルの損害賠償を求めて米国ヒューストンの連邦地裁に提訴した。

***ユコス関係者の動向**

- ・2005 年 1 月、ユガンスクネフチェガスは臨時株主総会を開催し、ロスネフチの生産子会社プルネフチェガスの社長であったブルバ氏を社長に決定した。
- ・2005 年 1 月、ユコスは経営幹部の 50%を削減するリストラに着手した。
- ・2005 年 2 月、ホドルコフスキー氏の拘置期限が 2005 年 5 月 14 日まで 3 ヶ月間延長される。同氏の拘置は逮捕された 2003 年 10 月 23 日から継続している。

お問い合わせ：report@tky.iej.or.jp